

令和6年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷小学校

全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	漢字を正しく使う。	37.90%	情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できる。また、話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。	正しく書ける漢字と書けない漢字があり文章を書くときに意図的に既習漢字を使う習慣を付ける必要がある。また、理解したメモや資料を自らの考えをもったり、個々に思考をつなげて正答したりすることに課題が残る。
	資料を活用し自分の考えが伝わるような表現の工夫をする。	54.00%		
	文中の主語・述語の関係を捉える。	57.50%		
	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫する。	58.60%		
算数	球の直径の長さや立体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を立式する。	33.30%	数量の関係を、□を用いた式に表すことは、ほとんどの児童ができる。また、速さ・時間・道のりの基本的な関係を正しく捉え、求めることができる。	条件から必要な数値を選び、立方体の体積を求める問題の正答率が低い。公式を覚えるだけでなく、公式を作るという指導方法を見直し、意味理解を正しく理解する必要がある。また、文章や図表から必要な情報を読み取る学習に課題が残る。
	道のりが等しい場合の速さについての理由を記述できる。	41.40%		
	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述する。	43.70%		
	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って立式し、基準値を超えるかどうかを判断できるか考える。	55.20%		